

平成26年度 東葉高速鉄道事業計画

平成26年度の事業の実施にあたっては、平成25年5月に策定した「第五次経営改善計画」に基づき、鉄道事業の基本である「安全を最優先する姿勢」を一層強固なものとしながら、地域に根差した企業としてお客様のニーズを的確に捉え、「お客様本位の鉄道」を目指した事業展開を図ります。

1. 安全輸送の確保

鉄道事業者の最大の使命である安全輸送を確保し、開業以来17年間の運転無事故記録を今後も継続すべく、施設の適切な保守管理や安全管理体制の更なる強化等により、お客様がより安心して利用できる鉄道を目指します。

- (1) 高架橋柱の耐震補強工事の実施
- (2) 車掌用監視モニタの更新
- (3) 排水・汚水ポンプの更新
- (4) 本線部における建築限界の再測定
- (5) 列車の運転に関する標識類の更新
- (6) 危機管理対策や安全輸送の確保につながる社員教育・訓練の実施
- (7) 異常時総合訓練の実施など全社的な取り組みによる安全管理体制の強化

2. サービスの向上

すべてのお客様に快適にご利用いただくため、多様化するニーズを的確に捉え、お客様の視点に立った質の高い輸送サービスに努めます。

- (1) 通学定期運賃の値下げ（割引率55%⇒65%に拡大）
- (2) 東海神駅と村上駅のバリアフリー化（エレベーターの整備等）
- (3) 朝ラッシュ時の東葉勝田台駅における整列乗車の実施
- (4) 各駅ホーム上への乗車位置表示の設置
- (5) 広報誌の発行による当社及び沿線情報の発信
- (6) 「お客様の声」を反映したサービス向上対策の実施

3. 財務体質の改善

業務の委託内容の精査等により経費を節減するとともに、繰上償還の実施により、早期に健全経営が確立できるよう努めます。

- (1) 日常業務の委託先や契約内容の見直し等による経費の節減
- (2) 北習志野駅電飾看板の一部LED化による経費の削減
- (3) 繰上償還の適切な実施による支払利息の軽減

4. 運輸収入の確保

当社線への利用者誘致を図るため、沿線集客施設との連携や企画乗車券のPR等を積極的に行い、運輸収入の増加に努めます。

- (1) 東葉東京メトロパス等の企画乗車券の発売による鉄道利用の促進
- (2) 沿線集客施設等との連携による新たな企画乗車券の導入
- (3) 沿線イベント等を通じた東葉高速線の利便性PR

5. 関連事業の推進

所有する未利用地や施設を有効に活用し、関連事業による増収に努めます。

- (1) 駅構内や高架下への新規店舗等の誘致による貸付料収入の確保
- (2) 駅構内や列車内への広告ポスター等の掲出による広告収入の確保
- (3) テレビ・映画の撮影協力による施設使用料の確保

6. 人材育成

社員教育を積極的に推進し、会社を担う人材の育成・技能の習得を図ります。

- (1) 職場内研修の充実及び職場外研修への参加
- (2) お客様へのさらなる接遇及び安全性の向上を目指した社員教育・訓練の実施

7. 地域との共生

当社線に親しみを持っていただくための各種イベントの開催や、地域に根差した企業としての社会的な役割を踏まえ、地域への貢献・地域との共生に努めます。

- (1) 沿線地域が持つ魅力や当社施設を有効に活かして「東葉健康ウォーク」「東葉サマーコンサート」「東葉家族車両基地まつり」を開催
- (2) 駅公設掲示板や行先表示器等を活用した地域活動への積極的な支援

平成26年度 損益収支予算

(単位：百万円)

区 分		予算額
経 常 損 益	営業収益	15,164
	旅客運輸収入	14,518
	運輸雑収	646
	営業費用	10,162
	営業費	5,372
	減価償却費	4,790
	営業利益	5,003
	営業外損益	△ 3,781
経常利益		1,222
特別損益		283
法人税等		142
当期純利益		1,363

※記載金額は各項目別に四捨五入して表示

平成26年度 設備投資予算

(単位：百万円)

区 分	予算額	備 考
安全対策	387	高架橋柱耐震補強 ほか
増収対策	72	駅構内新規店舗整備
サービス向上対策	687	エレベータ建設費 ほか
その他	20	
合 計	1,166	

※記載金額は各項目別に四捨五入して表示